

守

て中央に囃子附帳とか山道具附帳と書く、右

肩には宙る何月興行（或は狂言）、丸下へは

側へは劇場の名を記します。裏表紙へは

・千穂葉歳と書く。穂は秋の本宙すのた

か火を忌み嫌つて、お目おな、魚の字に替へ

て、辞書ふ、い字を作つたのでせう。これふ

の書體は多端勘直流です。囃子大出中は綴目

を右に、丸へ横にと細長く、それに縦に書

きます。例へば囃子ふ、何難坊々と狂言の名

題を書き、幕表のあるものあらば、先づ表幕

と記し、期行を改新に「まくぬく」と書き更

に「」を改めて「」通りかぐらあ、と、下座幕の文并、あし、は、え、と

「」を替へて「」同しと云ふ。其合にその狂言の

その場も必要、下座を順次書き、並へ、あ、の、に記す。

道真道真を項に記す。山道具

帳は、舞台に最初から置いてある大鉢とか途

中女中の持つて、あ、の、で、甲あ、の、持茶あ、の、巻あ、の、のやうあ、の、おもあ、の、のは、やはり

幕あ、の、の心あ、の、裏あ、の、附あ、の、けあ、の、各幕あ、の、ふあ、の、分けあ、の、て記し、俳優の身小

つけあ、の、持あ、の、つてあ、の、おあ、の、るあ、の、所あ、の、僧あ、の、持あ、の、道具あ、の、は

の役あ、の、の名あ、の、の下あ、の、にあ、の、俳優あ、の、の名あ、の、を書き、次に果物の

宇野四郎